



画像提供/JR東日本水戸支社

全線開通90周年記念ラッピング列車運行

運行期間/10月上旬～イベント期間中
運行区間/水郡線全線

忍たま乱太郎 常陸国で大冒険!の段



忍たま乱太郎の乱太郎、きり丸、しんべエと修学旅行実行委員会が常陸国にやってきた!ARボイスラリー、スタンプラリーと、地域内6軒のコラボフード店でコラボフードを注文すると、イベントオリジナルステッカーをプレゼント。

開催期間/11月20日(火)まで
開催地域/常陸太田市、常陸大宮市、大子町
公式キャンペーンWEB
<https://j-lppf2.jp/ibaraki-digital/satoyamaadv/>

「リスカの地上絵」プロジェクト



1979年、大子町の「リスカ」の工場が製造が始まった「うまい棒」。世代を超えて愛されるこの超定番スナックを約5万本使用し、水郡線全線開通90周年を祝う地上絵を描く。各地の制作イベントなどで作ったパネルをつなぎ合わせ、縦12メートル×横20メートルの絵を完成させる。

制作イベント/
「ひたちなか市産業交流フェア」
11月2日(土)、3日(日)
「ふるさと祭りおみやふれあい広場」
11月3日(日)
「水戸市産業祭」11月16日(土)、17日(日)

展示日時/11月30日(土)、12月1日(日)
会場/大子町・だいこ小学校グラウンド
茨城県政策企画部交通政策課
TEL.029-301-2606

全線開通90周年記念イベント

キャッチコピーは「この町とこの路と」。
沿線の魅力を伝えるイベントがもりだくさん!



水郡線沿線では清流、自然、農業、アクティビティなどを現代版絵巻ものように表現している。

水郡線フェス

沿線高校生によるコーナー、沿線の飲食店の出店、駅弁食べ比べ、ジャズコンサート、リスカの地上絵を上から眺められる熱気球搭乗体験、90周年記念グッズ発売など、盛りだくさん!

日時/11月30日(土)、12月1日(日)10:00~16:00
会場/大子町・大子文化福祉会館まいん
圃NPO法人まちの研究室
TEL.0295-76-8025

水郡線全線開通90周年応援事業 トランマルシェ in かわプラザ



日時/11月23日(祝)
10:00~15:00
会場/常陸大宮市・道の駅常陸大宮~かわプラザ~
圃小野瀬燃料
TEL.0295-57-2812

工芸品や飲食などの各ブースと、水郡線乗り鉄写真、Nゲージ旧車両を展示する。

水郡線全線開通90周年応援事業 苔アート展 鉄道に因んだ名字の話

■苔アート展
日時/11月1日(金)~12月24日(火)
10:00~16:00 入館無料 水・木曜休館
ワークショップ/11月9日(土)、12月7日(土)
■鉄道に因んだ名字の話
日時/11月30日(土)13:30~15:00
講師/名字研究家・高信幸男氏
参加費無料 ※チケットは会場配布
会場/大子町・大子ドレメ美術館
圃NPO法人まちの研究室
TEL.0295-76-8025



水郡線の歴史

茨城県北の大動脈である水郡線90年の歴史をたどってみよう。

資料:茨城県立歴史館「歴史館だより」No.98(2007年12月)より抜粋

水郡線のはじまりは、1892(明治25)年、「太田馬車鉄道」という会社に、水戸・常陸太田間に、馬がレール上の客車や貨車を引く馬車軌道としての軌道敷設の許可がおりたもの。「軌道」とは、路面電車のように道路上または道路に沿ってレールを敷設したものをいう。当初、水戸駅前を南町に向けて出発、南町で常陸太田方面に右折し、菅谷、額田を経て常陸太田に至る、国道349号の旧道に沿ったルートとして計画された。

その後、太田馬車鉄道は「太田鉄道」と改称、動力も蒸気に変更し、現在のルートに鉄道を敷設。1897(明治30)年11月、水戸から久慈川の手前まで開業、1899(明治32)年4月に太田まで全線開業させた。1901(明治34)年に経営が「水戸鉄道」という会社に引き継がれ、同社が、1915(大正4)年に、上菅谷から分岐して大宮(常陸大宮市)に至る路線の敷設を申請。この計画には、茨城県発展のためにはこの区間の鉄道は国有にすべきであるという意見が反映される。水戸鉄道は、後の国有化の可能性も含みつつ、1918

(大正7)年6月に上菅谷・瓜連間、同年10月に瓜連・常陸大宮間を開業。一方、常陸大宮以北は国が建設することとなり、常陸大宮と郡山を結ぶ計画を「大郡線」と名付けた。大郡線は、1922(大正12)年に常陸大宮・山方宿間を開業。常陸大宮まで開通した1927(昭和2)年12月に、水戸・郡山間を国鉄とするため、国が水戸鉄道を買収した。同年、郡山側からの工事も開始され、1934(昭和9)年12月4日、水戸・郡山間が全線開通し、「水郡線」が誕生した。



12月4日、全線開通90周年を迎える水郡線。山々と久慈川が織りなす風光明媚な景色、見どころやグルメ、常陸太田市と大子町もピックアップ。多彩なイベントも開催される、魅力満載の秋の沿線GO!

祝 全線開通90周年 水郡線沿線見どころ & イベント



そば処 ちおん



つけけんちん・そば 1,350円

ゴボウやニンジン、マイタケ、シメジなど、野菜がたっぷり入ったけんちんをつけ汁にさせていただき、冬にぴったりのあたたかメニュー。手打ちのうどんにも合う。

1600円
せいろそば&ミニうどんな丼セット



つるりと喉越しが良いせいろそばとミニうどんのセットは根強い人気がある。丼はたまごかけご飯やとろろご飯、豚バラご飯、まぐろたたき丼などがあり、迷うのも楽しい。

ひたちなか市部田野3688-1
TEL.029-263-7037
11:30～15:00頃 (L.O.14:00)
水・木曜定休



そばと一緒に味わいたいサイドメニューが充実

満志粉



鍋けんちんそば 1,250円

里芋やゴボウ、ニンジン、大根、白菜、さらにしいたけや豆腐など、食べやすい大きさに切られた具材がたっぷり。まろやかな味わいの寿司醤油を使うことで、より素材のうま味をひきだしているという。

玄そばの低温貯蔵や自家製粉だけでなく、店主自ら常陸秋そばを栽培するほど、おいしいそば作りの研究に余念がない。雑味が少なく上品でさわやかなそばは、遠方から訪れるファンも多い。



かき玉そば 1,250円

奥久慈卵と吉野葛で作るかき玉は、ふんわりとやさしい口当たりで、そばとよく絡む。シヨウガを入れると味のアクセントになると同時に、体もほかばかと温まる。

ひたちなか市高野3267 TEL.029-285-0031
11:30～14:00
月曜定休(不定休あり)



常陸秋そばを味わう
新そばの季節がやってきました。
厳選そば店とあわせ、県内のそばイベントを
ご紹介します。

店主のこだわりと思いが詰まった上品な絶品そば

そば処 八楽

契約農家から仕入れた玄そばを店で挽く

契約農家から仕入れた玄そばを、店で挽いて粉にし、その日の分だけ丁寧な手打ちで香り高いそばに仕上げる。店主の細やかな仕事に、ファンも多い。



けんちんそば、うどん、かけそば、1100円(つど)

野菜たっぷりの大人気のけんちんは、すっきりとした醤油味と濃厚な味噌の2種で、冬季限定。新そばは11月下旬から12月上旬頃に登場予定。美しい薄緑色のそばを、ぜひ味わって。

水戸市姫子1-33-1 TEL.029-252-2428
11:00～L.O.14:30、18:00～L.O.20:30
(売り切れ次第終了) 火曜、月・金曜夜定休





《幼児》1915年 油彩、キャンパス



ピエール=オーギュスト・ルノワール《泉による女》
1914年 油彩、キャンパス 公益財団法人大原芸術財団 大原美術館蔵

見どころ 籾の絵画制作を支援した友人たち 彼らとの交流やエピソードも紹介

人生の多くを病床に伏していた籾が制作に専念できたのは、籾の情熱や人柄を愛した支援者たちの存在が大きかった。特に新潟県の洲崎義郎氏とは、130通を超える書簡を送り合うなど、互いに深く信頼を寄せていたことがわかる。義郎氏の肖像画をはじめ、作品にまつわる籾と支援者たちのエピソードも紹介される。

【会期中のイベント】

- 12月1日(日)14:00～15:30 講演会「中村籾と同時代の画家たち—岸田劉生、藤島武二、曾宮一念など」要申込
講師：田中淳氏 [公益財団法人 大川美術館長]
- 12月7日(土)14:00～15:30 講演会「西洋絵画と中村籾」要申込
講師：三浦篤氏 [公益財団法人大原芸術財団 大原美術館長]
※会場：地階講堂 定員：250名 参加費：無料 申し込み方法：来館・往復ハガキ・ホームページ (<https://www.modernart-museum.ibk.ed.jp>)



開室時間／火～金曜13:00～15:00
土日祝日10:30～15:00
入室料無料

茨城県近代美術館敷地内にある「中村籾アトリエ」

新宿区下落合にあったアトリエを復元した「中村籾アトリエ」。室内には、彼が生前に愛用していた椅子やソファーやテーブル、イーゼルなどの遺品、デスマスクが展示してある。病気のため外に出られず、ほとんどの時間を過ごしていたアトリエであり、晩年の絵の多くは、ここで描かれている。展覧会とあわせて見学することで、より籾の世界を知ることができるだろう。



見どころ 籾が初めて目にして衝撃を受けた ルノワールの《泉による女》

当時、西洋の絵画を実際に見る機会ほとんどなく、美術家たちは海外の画集（多くはモノクロ）などから構図や筆致を学んでいた。そんな中、倉敷市の実業家・大原孫三郎氏が購入したルノワール《泉による女》が東京の展覧会に出品されることを知った籾は、滞在していた伊豆大島から駆けつけ初めて西洋美術に直面、半日も絵の前にたたずんでいたという。その後、自身でも驚くほど作品が変わり、《幼児》には、やわらかさや色彩の統一感など、これまでの籾の作品との違いが見て取れる。

見どころ 中村籾をもっと知ってもらうため 籾のイラストやまんがも

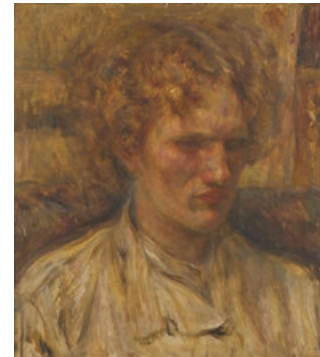


今展では、イラスト版も含めポスターを3種用意。また、「まんがツネさん」で籾を紹介するなど、郷土の画家・中村籾に、より親しみを感ずることができるように工夫されている。



今、訪れたいアート展

この時期、各美術館で工夫を凝らした企画展が開かれています。
秋の1日、芸術にひたってみませんか？



《エロシェンコ氏の像》(重要文化財)1920年 東京国立近代美術館蔵
※重要文化財の公開日数の制限に従い、12月22日から28日まで、写真パネルによる展示となる

水戸市出身の洋画家・中村籾 没後100年を記念した大規模個展

37歳という若さで生涯を閉じた水戸市出身の洋画家・中村籾。若くして肺結核に冒され、絶えず死と隣り合わせにあった籾の画業は20年にも満たないものだったが、制作に全精力を傾けた彼の作品は現在に至るまで高く評価され、全国各地の美術館等に所蔵されている。

本展では、重要文化財《エロシェンコ氏の像》をはじめ、20年前の前回展では出品がかなわなかった《巖》など約120点が一堂に会する。茨城県近代美術館のみの単独開催となるので、お見逃しなく。



《巖》1909年
油彩、キャンパス
皇居三の丸尚蔵館蔵

茨城県近代美術館

没後100年 中村 籾 展 —アトリエから世界へ

11月10日(日)～2025年1月13日(月・祝)

【入場料】

一般1,360円、満70歳以上680円、高校生1,130円、小中生550円 ※冬休み期間を除く土曜日は高校生以下無料 ※障害者手帳・指定難病特定医療費受給者証等をご持参の方は無料 ※11月13日(祝)は茨城県民の日により全ての方が無料 ※籾の命日の12月24日(火)は満70歳以上の方は無料

水戸市千波町東久保666-1 TEL.029-243-5111
月曜休館 ※12月29日(日)～2025年1月1日(祝)は休館
9:30～17:00 (入場は16:30まで)